

第2回国土強韌化推進会議における 主な意見等について

令和5年11月

内閣官房 国土強韌化推進室



第2回国土強靱化推進会議における主な意見等

区分	第2回国土強靱化推進会議における主なご意見	実施状況の評価の在り方に向けた考え方
インプット	<p>○補助事業の実施状況の評価が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> どの程度の補助率で全体をカバーでき、国土強靱化に結び付いているのかを示す指標があるとわかりやすい。 補助を申請できない市町村もあり格差が広がっている。取り残された市町村の評価が課題。 	<p>○対策毎の予算整理</p>
アウトプット（KPI）	<p>○フォローアップでは、気候変動や人口減少等も考慮し、中長期的な重点施策の議論が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候変動による災害の激甚化や人口減少、少子高齢化等が見込まれる中、中長期的に重点化すべき効果的な施策が何かを評価していくことがアウトプット指標において重要。 中長期的な重点施策について、基本計画の検討の中では、どう評価していくか議論できていなかったため、今後のフォローアップの中で取り上げていくことが求められる。 <p>○地域毎の条件の違いも考慮し、国と地方のKPIの連携を図ることが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域によって人口や高齢化、インフラ整備状況などの条件が異なる。国と地域の連携を意識した上で、国は全国で広く進める施策を軸にKPIを設定したり、ベンチマークを立てるなど、重点化する施策を盛り込んだKPI設定が必要。 国での全体評価に加え、地域ブロック単位でどれだけ強靱化が進んでいるのかの評価が必要。 国全体の平均的なKPIでは地域の特徴はわからない。地域計画で如何に対応していくべきかの視点も必要。 	<p>○中長期的な重点施策の評価</p> <p>○国と地方のKPIの関連付け</p>
アウトカム・実績	<p>○実績の評価では、単独施策ではなく、相乗効果、課題も含めて分析が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 対策を講じたお陰で被害が生じなかったのか、対策を講じずとも問題なかったのか、国民目線でわかりにくい。 100%という目標を達成した後、それを維持、成長させることについては、別に評価することも必要。 実績を出せなくても課題を共有するなど、アウトカムの実績を総合して進める考えも必要。 本当に効果があったのか、シミュレーション開発や技術開発を進め、実績をどう評価していくのが課題。 <p>○研究機関と連携やデータ公開等を通じて、アウトプット・アウトカムに係る知見の蓄積が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 「定量的なシナリオ型の評価」と「フローチャートのような網羅的な評価」をうまく組み合わせることが大切。行政だけですべての評価を行うことは難しく、研究機関等との連携が必要であり、データが上手に共有できるとよい。 都道府県は、平時のデータ収集や災害時の検証に係る指標の設定を行い、国もバックアップするとよい。 研究の継続性を担保し、強靱化に係るデータ公開を通じ、アウトカム、アウトプットの知見を蓄積させることが重要。 	<p>○関連施策との相乗効果の分析</p> <p>○課題も含めた総合評価</p> <p>○分析に必要な知見の蓄積（研究機関連携、データ公開等）</p>

第2回国土強靱化推進会議における主な意見等

区分	第2回国土強靱化推進会議における主なご意見	実施状況の評価の在り方に向けた考え方
アウトカム・実績	<p>○<u>施策に直接関わるメイン指標に加え、社会的・経済的な側面を示すサブ指標が必要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 潜在的に力を発揮しているものは評価されにくく、平時でも適用できる評価方法を考えることが必要。国民の意識醸成を客観的にはかる指標を確立する必要があり、防災に関する世論調査の活用等、客観的な仕組みが必要。 健康診断に例えると、KPIは運動や睡眠等の日頃の取組で、血圧等の客観的なものがセットであるべき。 KPIには、事業や施策に直接関わるメイン指標と、<u>社会的・経済的な面をカバーできるサブ指標の検討が必要</u>。 <p>○<u>社会のあるべき姿(基本計画の第1章)を如何に評価するかが論点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> アウトプットはあるべき姿で、アウトカムはそこから生まれた成果が集積した理想の姿と言える。 あるべき姿に対して取組の方向性がずれていないか、どれだけ近づいているかという視点が重要。 本来のアウトカム指標は社会のあるべき姿に基づくもので、基本計画の第1章を検討する中で議論されてきた。今後、<u>アウトカム指標にどうつなげていくかが論点</u>。 	<p>○KPIを補足するデータ整備(潜在的变化(意識等)、社会・経済指標等)</p> <p>○施策横断的な指標の設定</p>
施策の推進	<p>○<u>5か年加速化対策等の取組により、どれだけ国土強靱化が加速したかの評価が必要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 各府省庁の施策との相乗効果がどれだけ生み出されたかに加え、<u>どれだけ加速したかをはかることが重要</u>。 5か年加速化対策については、当初よりも資材費や労務費が高騰しているが、高騰分を補てんしているのか。 	<p>○加速化すべき施策の評価</p>
基本計画や脆弱性取組	<p>○<u>複雑な社会・経済システムをフローチャートで如何に評価するかは将来に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 将来に向けて、<u>社会全体を俯瞰し、どのように相互依存しているのかを捉える練習が必要</u>。 社会の持続性を確保するという観点から、<u>命を守るだけでなく、度重なる地震の中でも使い続けられる建物にしていくという考え方も必要</u>。 現実のシステムは複雑であり、その因果関係の複雑さをどう評価していくのかは課題。 	<p>○脆弱性評価の見直しに向けた知見の蓄積</p>